季刊

博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM QUARTERLY

89

夏の企画展

宝の山2008

―磐梯山をめぐる人と自然―

URL http://www.general-museum.fks.ed.jp

福島県立博物館

〔右上〕パン皮状火山弾　館蔵
約23万年前の噴火で火口から飛んだ火山弾。磐梯山の東南にある赤埴（あかはに）山の南麓で採取された。パンの皮に似てる?
〔中上〕法正尻遺跡出土硬玉製大珠　県重文　福島県文化財センター白河館蔵
磐梯山のふもと、猪苗代町と磐梯町にまたがる縄文時代の遺跡から発見されたヒスイの大珠。
〔左上〕蟹沢浜湖底遺跡　穴沢味光氏撮影
昭和20～30年頃の猪苗代湖の渇水期に、湖底から縄文時代の遺跡が現れた。
〔下〕奥州会津怪獣の絵図　個人蔵
天明2年（1782）頃のかわら版。版元不明。磐梯山に怪獣が現れ、猟師にしとめられたとある。宝の山のヌシ?

夏の企画展　共同企画展「会津磐梯山」

宝の山2008 ―磐梯山をめぐる人と自然―

会期 7月19日（土）～9月23日（火・祝）

宝の山。ふるさとの山。磐梯山は、猪苗代湖とともに、会津のシンボルとなっています。この企画展は、磐梯山をとりまく自然や歴史・民俗など幅広い内容をとりあげ、その素晴らしさを伝えてゆくことを目指しています。

地元に住む方々にとっては、いつも眺めている山の、これまであまり知られていなかった姿を、さまざまな展示品を通して紹介します。裏磐梯や猪苗代を訪れた観光客の皆さんには、現地の自然を満喫するだけでなく、山の成り立ちや歴史についても、この機会に、ぜひ理解を深めていただきたいと思います。

1.岩石から知る磐梯山の生い立ち

磐梯山の火山活動が本格的にはじまったのは、今からおよそ三五万年前。その証拠となる岩石標本などを展示し、その後の形成過程をたどります。猪苗代湖の誕生や、その後の水位の変化のようすも示します。

2.山麓の遺跡や寺社の宝物

山麓に人類の生活の痕跡がみられるのは、およそ三万年前から。その後のようすを、法正尻遺跡など遺跡からの出土品、恵日寺など寺社に伝来した宝物、村の暮らしの中で用いられた民具などによって紹介します。

3.噴火報道にかけた情熱

ちょうど二二〇年前、七月一五日の朝に磐梯山は大爆発を起こします。日本の新聞の黎明期に当たり、各社が競い合うように特色のある取材や報道を展開しました。報道に携わった人物を、ゆかりの資料とともに紹介します。

（表紙）岩代国磐梯山噴火の図 会津若松市立会津図書館蔵

■夏の企画展「宝の山2008　磐梯山をめぐる人と自然」は、七月一九日(土)から九月二三日(火・祝)まで開催します。
■観覧料　一般・大学生三四〇円(二八〇円)　高校生二〇〇円(一六〇円)　小中学生一三〇円(一一〇円)　(　)内は二〇名以上の団体料金です。

社告

磐梯山噴火ニ付テハ同地罹災ノ實況ヲ知らんガ爲ニ當社員ヲ特派シ電報ニ通信ニ最モ迅速ニシテ最モ精確ナル報道ヲ讀ちざる樣手配ヲなしたれバ讀者ヲシテ尙一層的切ニ同地ノ實況ヲ知リ其像ヲ想見せしめんとせんエハ精細なる眞圖ヲ得るニ在ニ付今回歐風ヲ以テ有名なる佐生巧郎主山本芳翠氏ニ委托し親しく實地ニ就テ其實況ヲ撮影又ハ寫生し極めて精細極めて確實ある一大眞圖となし且同館の歐風彫刻家谷田清氏ニ之ガ彫刻ヲ請ひ附錄として刊行する筈ニて既ニ山本氏ニハ該地へ出張し目下その實景寫生中なれバ近日ヲ期して精密完全の——大眞圖ヲ高覽ニ供するヲ得べし　冀はくハ之ヲ諒せられよ

〔上〕東京朝日新聞社告・磐梯山噴火真図　山本芳翠画　館蔵
明治21年7月24日、噴火に関する詳細な図を近日発行する旨の予告が出され、山本芳翠による銅板画が8月1日に付録として配布された。画家による最新画像。
〔左中〕火山灰を被った杉枝　個人蔵　明治21年の噴火の火山灰が、生々しい。
〔右中〕日本製中型湿板カメラ　日本カメラ博物館蔵
噴火報道のために訪れた記者たちは、このようなカメラをかついで取材をおこなった。
〔左下〕鳥瞰図の絵葉書　個人蔵
近代以降、磐梯山と猪苗代湖周辺の観光地化が進んだ。観光名所を紹介する絵葉書。

4.広がる磐梯山展

今回は、裏磐梯の磐梯山噴火記念館、猪苗代の野口英世記念館と連携し、共同企画展「会津磐梯山」として開催します。二館の展示では、噴火のようすを撮影したさまざまな写真や小林栄という人物の事績を詳しく紹介しています。ぜひあわせてご覧ください。

○磐梯山噴火記念館

企画展「写真から見る1888年の磐梯山の噴火」
会　期　七月五日～一一月一六日

○野口英世記念館

企画展「磐梯山への想い
—野口英世の恩師・小林栄の遺したもの—」
会　期　七月一日～一一月三〇日

関連行事

○記念講演会・パネルディスカッション
講演「磐梯山噴火に地元の人々はどう対処したか」
岩手県立大学名誉教授　米地文夫さん
パネルディスカッション「磐梯山噴火をめぐる謎に迫る!」
岩手県立大学名誉教授　米地文夫さん
野口英世記念館学芸課長　小桧山六郎さん
磐梯山噴火記念館副館長　佐藤公さん
当館学芸員　竹谷陽二郎
日時　7月27日（日）午後1時半～

○フォーラム&公演
フォーラム「玄如節 民謡『会津磐梯山』のルーツをたどる」
パネラー　玄如節顕彰会
コーディネーター　当館学芸員　佐々木長生
公演「玄如節 歌垣の世界」
出演　玄如節顕彰会の皆さん
日時　8月3日（日）午後1時半～

※この他にも、野外講座・連続講座・展示解説会などたくさんの行事があります。
詳しくはトピックスとインフォメーションをご覧ください。

イベントレポート

まほろん移動展

「考古学から探る古代会津
―古墳・飛鳥・奈良・平安―」関連事業

◎考古学講座・展示解説会

「考古学から探る古代会津の謎」

平成二〇年四月一九日（土）

講師　当館学芸員　横須賀倫達

古代という時代は、文字による記録が少なく、多くの謎に包まれています。そんな古代会津の謎に迫った展覧会の内容に沿い、四つのテーマ（謎）を設けて紹介しました。

謎の1　『古事記』四道将軍伝説と会津大塚山古墳の謎

昭和三九年に発掘調査された会津大塚山古墳（会津若松市）からは、二ヶ所の埋葬施設と三角縁神獣鏡などヤマト朝廷との深いつながりを示す副葬品がみつかりました。『古事記』には会津の地名起源についての説話とともにヤマト朝廷が派遣した二人の将軍の話が載せられており、発掘調査当時、大塚山古墳は会津の人々を従えたこの将軍たちの墓である可能性が考えられたのです。ただし、現在は大塚山古墳より古い古墳の存在が確認されるなど、古墳文化がより以前に会津の地に伝わっていたことが分かっており、その説を支持する人は少数派になっています。

謎の2　豪族居館「古屋敷遺跡」存在の謎

五世紀に入ると、大型の古墳が突如会津盆地から姿を消し、有力な豪族が姿を消したためと考えられていました。ところが近年、古屋敷遺跡（喜多方市塩川町）の発掘調査で、大規模な豪族の居館跡がみつかりました。その規模は全国でもトップクラスであり、有力な豪族がいなくなったとするそれまでの理解に一石を投じました。今後、居館の主が葬られた大型の古墳がみつかるのか、それともこの遺跡に異なる性格を読みとるのか、目が離せません。

謎の3　会津郡衙成立の謎

六世紀、ヤマト朝廷は全国の有力者を「国造」に任命して地方を治めさせますが、記録に「会津国造」の記載は見当たりません。ところが、律令制施行時には「会津郡」が置かれたことが文献に記され、実際に会津郡衙（郡役所）跡と考えられる郡山遺跡（会津若松市河東町）からは奈良時代初めの施設の跡がみつかっています。会津は古墳時代からスムーズに奈良時代へと進んだのか、会津の飛鳥時代の研究はこれから本格化します。

謎の4　徳一と慧日寺、創建の謎

復元された金堂が話題になっている慧日寺跡（磐梯町）は奈良で法相宗を学んだ徳一によって大同二（八〇七）年に創建されたとされます。実際に発掘調査でも九世紀代の土器がみつかっており、なかには「寺」、「佛」と書かれたものもありました。また、現在まで寺宝として知られる三鈷杵や撥鏤尺などは奈良時代のものであり、相当の身分の人物でないと持ち得ない宝物でもあります。慧日寺が徳一によって建てられた可能性は、考古学から考えても十分にあるのです。

講座終了後は、展示室内で解説会を行いました。今回はいつも体験学習室でみなさんに着てもらっている古墳時代人の衣装（埴輪を参考にしたものです）を身につけて解説をしました。意外と!?好評だったと思っています。

（考古担当　横須賀倫達）

装飾横穴墓の世界

Q&A

回答者 考古担当 田中 敏

Q：総合展示室入口のタイムトンネル奥の壁に描かれている絵は何ですか。

A：これは、双葉町にある清戸廹横穴墓群のなかの一つ、七六号横穴墓の奥壁に描かれた絵を模写して製作された模型です。横穴墓とは、崖面を横に掘り込み、内部に遺体を安置する部屋（玄室）をつくるお墓で、六世紀に出現し、七世紀に盛んに造られた古墳の一種です。清戸廹横穴墓群も七世紀を中心とした時期に営まれた横穴墓群で、総数三〇〇基以上の横穴墓が確認されていますが、昭和四二年に双葉町立双葉南小学校の新築工事に先立って行われた調査では、このうち七六号横穴墓も含め、全部で五三基の横穴墓が調査されました。

七六号横穴墓は工事中に発見されたため、一部はすでに崩れていましたが、入口（玄門）の部分と玄室は残っていました。絵はこの玄室の奥の壁に、ベンガラ（酸化鉄）という顔料を使って描かれていました。ここで七六号横穴墓に描かれている絵をくわしくみていきましょう。

壁に向かって右側には、馬に乗る人物、兜を被る人物、中央に大きな渦巻文とその下に矢を射る人物と動物（犬・鹿）、左側に人物と動物（犬？）がそれぞれ描かれています。最も大きく描かれた人物は、兜を被って特別な儀式に臨んでいる武人の姿なのでしょうか。また、その右側の人物を乗せた馬は、尻尾をなびかせて駆けている様子を描いたようにもみられます。さらに渦巻文の下には、弓矢で狩りをしている場面、その左側には、やはり被り物をした人物が描かれています。この壁画の意味については、さまざまな姿で描かれている人物がこの墓に葬られた人物で、それぞれの場面は、この人物の生前の姿の一コマを描いたのではないかという説が示されています。しかし、ほかの説も唱えられており、渦巻文の意味などとともに、この壁画はまだ多くの謎を秘めています。

Q：県内ではほかにどのような装飾横穴墓がみつかっていますか。

A：装飾横穴墓も含めた装飾古墳の例は全国で約六〇〇基確認されています。最も分布が集中しているのは、熊本・福岡両県で、次いで東日本の茨城・福島両県となります。また、鳥取県や大阪府にも集中する地域がみられます。

県内で発見されている装飾古墳はすべて横穴墓で、線刻画も含めると、現在二〇数例が確認されています。そのほとんどは、清戸廹横穴墓のように浜通り地方の横穴墓ですが、なかには泉崎横穴墓（泉崎村）のように中通り地方にある横穴墓に描かれた例もあります。泉崎横穴墓（四号）には、玄室の奥壁と側壁・天井に、赤色の顔料で、渦巻文や複数の人物（巫女？など）、動物などが描かれています。また、いわき市中田横穴墓には、玄室（後室）の周囲の壁に、赤と白の顔料で連続した三角形文が描かれています。この連続三角形文は、埴輪の文様とも共通するモチーフとなっています。

清戸廹・泉崎・中田の各横穴墓は、年に数回一般に公開されています。詳しい日程等は、各教育委員会にお問い合わせください。

装飾横穴墓（清戸廹横穴墓）　写真提供 双葉町教育委員会

研究ノート

G・ビゴーが見た磐梯山噴火

―一二〇年前を語る絵の証言者―

星 幸　歴史担当

一八八八年七月一五日午前七時四五分頃、磐梯山は歴史的大爆発を起こしました。今年はちょうど噴火後一二〇年の節目の年にあたり、本館でも夏の企画展「宝の山2008―磐梯山をめぐる人と自然―」を開催します。日本における本格的な災害報道の端緒となった磐梯山噴火報道については新聞報道を中心に展示します。その報道陣の中にフランス人風刺画家ビゴーもいました。ビゴーの名前を知らなくても、図1「漁夫の利」（トバエ1号）等の風刺画は、小・中・高のどの教科書にも登場し、だれもが記憶の片隅にとどめているおなじみの絵です。しかし、そのビゴーが一二〇年前、フランス「ル・モンド・イリュストレ」紙の画報通信員として噴火取材のため磐梯山に来ていたという事実は、意外に知られていません。おそらく、その事実を知れば、ビゴーが福島へ来たんだ、という感慨とビゴー作品への親しみがさらに増すはずです。

ジョルジュ・フェルディナン・ビゴーは、一八六〇年フランス・パリに生まれました。画家であった母の影響から美術学校に入学するも、家計を助けるため中退し新聞・雑誌の挿絵の仕事を始めます。その後ジャポニズム（日本美術愛好趣味）に深く傾倒。一八八二年、浮世絵・日本美術を学ぶため来日します。当時すでに浮世絵の時代は去り、浮世絵技術の習得は困難であるという現実にも直面しますが、陸軍士官学校画学教師や仏語塾仏語学教師、漫画雑誌への寄稿等の仕事をしながら、銅版画集や時局風刺雑誌「トバエ」等の発行を手がけました。そして極東日本での思いも寄らぬ一七年間の長期滞在。それも二〇代から三〇代の人生の最盛期。ビゴーの日本への愛着とこだわりがいかに強かったが伺い知れます。その間、自由民権運動や鹿鳴館外交、憲法発布や帝国議会開設等、近代化へ歩む激動の日本を絵筆で描き、風刺画や風景画等約三〇〇〇点の作品を残します。ビゴーは日本人画家であれば絶対目をつけない視点から、明治の庶民生活を見事に描写しました。それらの作品は、貴重な明治日本の素顔の記録となっています。

図2は「磐梯山周辺　もはや木々も家々もなく、写真屋ばかり」（トバエ36号）というビゴーお得意の風刺画で「磐梯の破裂を写すより写真屋の行列を写した方が余程面白かんべい」と写真師の多さを皮肉っています。明治中期の写真師は大きな暗箱カメラと三脚、冠布（かぶりぬの）の三点セットを携行したため、磐梯山の麓への運搬はたいへんな重労働だったはずです。当時、新聞報道における写真製版の技術はまだありませんでした。よって、磐梯山に集まった写真師たちは、いわゆる報道カメラマンではなく、ほとんどがドキュメント写真撮影のカメラマン。大勢の写真師の姿から、当時写真屋は早取（撮）写真〈乾板写真で撮影短縮〉等を商売の目玉として営業的に成り立っていた、ということがわかります。また、噴火後早い段階で全国から多くの取材陣が駆けつけられたのは、前年（一八八七年）に上野から郡山まで鉄道が開通したという交通革命のおかげでした。鉄道開通がなければ、この絵も当然存在しなかったわけです。さらに噴火数日後も、写真師が現場から離れないのは、次なる噴火の決定的瞬間、シャッターチャンスをねらっていたからです。スクープを狙う命がけのジャーナリストの姿は、一二〇年前も現在も、まったく変わりがないようです。

図3は、画家ビゴーがきびしい風刺の眼だけではなく、被災地・被災者の悲惨な状況にも慈愛の眼差しを向けたスケッチの一つです。これらの絵は、磐梯山噴火を克明に語る絵の証言者となりました。

ビゴーのジャーナリストとしての活躍はその後も続き、濃尾大地震（一八九一年）、日清戦争（一八九四年）、三陸大津波（一八九六年）の取材にも挑み、その惨状を絵と写真で多数記録しました。明治日本の目撃者ビゴーが残した絵画資料は、価値ある文化遺産として今後さらに再考・再評価されていくでしょう。

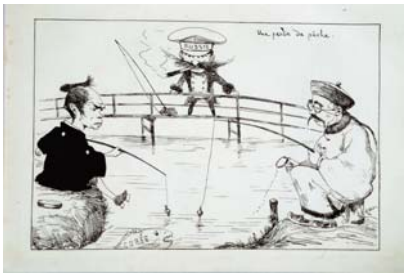


図3 | 図1
図2

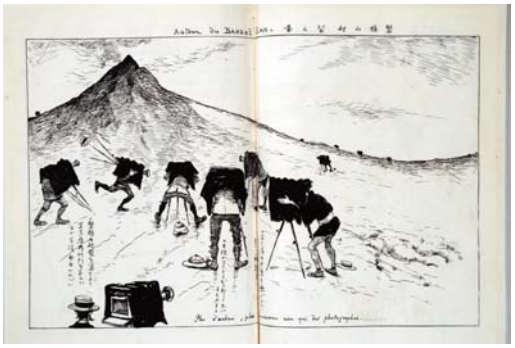


図1「漁夫の利」　トバエ1号
写真提供：横浜開港資料館

図2「磐梯山周辺
もはや木々も家々もなく、
写真屋ばかり」トバエ36号
写真提供：横浜開港資料館

図3「被災した見禰村」
宇都宮美術館蔵

トピックス

共同企画展 会津磐梯山

磐梯山噴火記念館、野口英世記念館、福島県立博物館。会津の文化施設三館が連携して、会津のシンボルである「磐梯山」を共通テーマに、それぞれ特色のある企画展を開催します。三館の展示を通して、磐梯山をめぐる自然・歴史・文化など幅広い内容をご紹介します。共同開催する関連行事も充実しています。

写真から見る 1888 年の磐梯山の噴火

■磐梯山噴火記念館（北塩原村）

今までに発見された一六〇点余の磐梯山噴火の写真と、同じ場所から撮影したものを並べ、当時と現在との比較をし、一二〇年の移り変わりを紹介します。その写真を撮影した三名（岩田善平・遠藤陸郎・バルトン）の功績を紹介。岩田やバルトンの写真原版の複製を作り、当時のカメラも展示します。

会　　期　7月5日～11月16日 ※会期中は休館日なし
観 覧 料　大人　600円
　　中高校生　500円
　　小学生　400円
開館時間　8:00～17:00
問い合せ　0241-32-2888

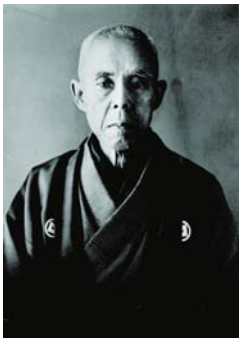
岩田善平撮影
写真原版

磐梯山への想い－野口英世の恩師・小林栄の遺したもの－

■野口英世記念館（猪苗代町）

小林栄は明治二一年の磐梯山噴火の体験や二次災害などを学術雑誌に投稿、また気象観測所を自宅内に設置して、農業への科学技術の導入を行いました。国立公園運動にも携わり、磐梯山への想いを深くしていた小林栄の足跡を追います。

会　　期　7月1日～11月30日
　　※会期中は休館日なし
観 覧 料　大人　500円
　　小・中学生　200円
開館時間　10月まで　8:30～17:00
　　11月から　9:00～16:15
問い合せ　0242-65-2319



小林栄肖像写真

■山寺サミットIn会津
－慧日寺跡と福島県内の山岳寺院－
9月21日(日)9:30～
福島県立博物館 講堂
県内の山岳寺院の事例報告・講演など

■シンポジウム
磐梯山噴火から考える火山防災
7月19日(土)13:00～
福島県立博物館 講堂
講演・報告・パネルディスカッションなど

■三会場巡見ツアー
磐梯山のすべてがわかる
学芸員が同行して解説しながら、各館の展示を見学
実費負担　開催日程はお問い合せ下さい。

■磐梯山は世界一
－磐梯山こどもシンポジウム－
9月6日(土)13:00～
磐梯山青少年交流の家 講堂
講演・こどもたちの研究発表・Q&Aなど

■秋の企画展は、平成二〇年一〇月二日(土)から二月二四日(月)まで

秋の企画展 予告

遠藤香村

－会津に生きた会津の画人－

遠藤香村は、江戸時代の後期、会津若松の香塩に生まれたと伝えられる画人です。江戸時代画壇の主流であった四条派や谷文晁の画風を学び、俳句にも通じ、会津を中心に山水画、人物画、花鳥画と幅広い作風に盛んな制作活動を繰り広げました。

藩の命を受け会津漆器や本郷焼の図案改良にも尽力したと伝えられますが、現存する作品の多さからは、民間の幅広い支持があったことが知られます。言い換えれば、香村の作品からは、当時の会津の人々の「センス」をうかがうことができるのです。

現在もなお、比較的多くの作品を確認できる香村ですが、近い将来、それらも多くが散逸する可能性があります。本展では、遠藤香村の作品を会津と福島県の貴重な文化財としてあらためてご紹介します。

百老図（部分）遠藤香村筆 個人蔵

また、会期中に能楽を体験する講座なども開催します。香村の作品とあわせて伝統文化を楽しみ、学ぶ機会にしていただきたいと思います。

（美術担当　川延安直）

information

常設展示室「歴史・美術」テーマ展示

「ふくしま窯めぐり2～相馬駒焼」
会期　六月一七日(火)～七月二一日(月・祝)
「けんぱく版課外授業―資料で見る社会科」
会期　七月二三日(水)～八月二四日(日)
「けんぱくの宝08」
会期　八月二六日(火)～一〇月五日(日)

常設コーナー拡大展示

「戊辰戦争140年記念展」
会期　九月一七日(水)～一〇月一九日(日)

ミュージアムイベント

磐梯山関連音楽イベント
「会津磐梯山を歌おう」
出演　会津若松市立第二中学校合唱部
日時　七月一九日(土)午前一一時～一二時
夏のタベ野外映画会
日時　八月一六日(土)午後七時～九時
「長谷川ファミリーほのぼのコンサート」
出演　声楽家・ハープ奏者 長谷川朝子さんほか
日時　九月一〇日(土)午後一時半～三時

木曜の広場

場所　講堂　入場無料

会津学講座
第4回「会津の山の神信仰」
講師　館長 赤坂憲雄　学芸員 佐々木長生
日時　七月三日(木)午後一時半～三時
第5回「磐梯山信仰」
講師　館長 赤坂憲雄　学芸員 佐々木長生
日時　八月七日(木)午後一時半～三時
第6回「鮭・鱒の民俗」
講師　館長 赤坂憲雄　学芸員 佐々木長生
日時　九月四日(木)午後一時半～三時

講演・講座

※は要申込

◎企画展関連行事
○記念講演会・パネルディスカッション
講演会「磐梯山噴火に地元の人々はどう対処したか」
講師　岩手県立大学名誉教授　米地文夫さん
パネルディスカッション
「磐梯山噴火をめぐる謎に迫る！」
パネラー　岩手県立大学名誉教授 米地文夫さん
野口英世記念館学芸課長 小桧山六郎さん
磐梯山噴火記念館副館長 佐藤公さん
学芸員 竹谷陽二郎
コーディネーター　学芸課長　藤原妃敏
日時　七月二七日(日)午後一時半～四時
○フォーラム・公演
フォーラム
「玄如節 民謡『会津磐梯山』のルーツをたどる」
パネラー　玄如節顕彰会
コーディネーター　学芸員 佐々木長生
公演「玄如節　歌垣の世界」
出演　玄如節顕彰会の皆さん
日時　八月三日(土)午後一時半～四時
○関連講座　シリーズ磐梯山
第1回「磐梯山周辺の植物」
講師　福島県野生動植物保護アドバイザー 阿部武さん
日時　七月二六日(土)午後一時半～三時
第2回「法正尻遺跡 縄文中期の人々の生活―」
講師　福島県文化振興事業団 松本茂さん
日時　八月二日(土)午後一時半～三時
※第3回「火山噴火のモデル実験をしよう」
講師　学芸員 小澤義春
日時　八月九日(土)午後一時半～三時
第4回「葦名と伊達の戦い」
講師　郡山市文化財保護審議会会長 高橋明さん
日時　八月二三日(土)午後一時半～三時
第5回「民話 手長・足長を語る」
講師　野口英世記念館学芸課長 小桧山六郎さん
いなわしろ民話の会の皆さん
学芸員 佐々木長生
日時　八月三〇日(土)午後一時半～三時
第6回「文芸の世界」
講師　元福島県立図書館総括司書 菅野俊之さん
日時　九月一三日(火)午後一時半～三時
○野外講座
※「磐梯山の成り立ちを探ろう」
講師　福島県立保原高校教諭 千葉茂樹さん
日時　八月三一日(日)午前八時半～四時半
○展示解説会
講師　学芸員 竹谷陽二郎 星幸ほか
日時　七月二〇日(日)午後一時半～二時半
日時　七月二一日(月・祝)午後一時半～二時半
日時　九月二三日(月)午後一時半～二時半
日時　九月二三日(火・祝)午後一時半～二時半
○美術講座
展示室講座2「やきものはここを見る2」
講師　学芸員 小林めぐみ
日時　七月一二日(土)午後一時半～三時
展示室講座3
「けんぱく版課外授業　資料で見る社会科」
講師　学芸員 笹川英俊
日時　八月一〇日(土)午後一時半～三時
展示室講座4「魅力発見　けんぱくの宝2」
講師　学芸員 川延安直 笹川英俊 小林めぐみ
日時　九月二七日(土)午後一時半～三時
○考古学講座
※「高校生のための考古学集中講座」発掘体験
講師　学芸員 森幸彦ほか
日時　八月六日(水)午前一〇時～午後四時
※「高校生のための考古学集中講座」遺跡巡見
講師　学芸員 森幸彦ほか
日時　八月七日(木)午前一〇時～午後四時
※「高校生のための考古学集中講座」体験学習
講師　学芸員 森幸彦ほか
日時　八月八日(金)午前一〇時～午後四時
※考古学講座「土器作り」1
講師　学芸員 大竹正浩ほか
日時　九月六日(土)午前一〇時～午後四時
※考古学講座「土器作り」2
講師　学芸員 大竹正浩ほか
日時　九月七日(日)午前一〇時～午後四時
○民俗講座
箕の民俗1「箕をめぐる民俗」
講師　学芸員 佐々木長生
日時　九月二八日(日)午後一時半～三時

実演

場所　体験学習室

「昔語り」
講師　語り部 山田登志美さん
日時　七月一三日(日)午後一時半～三時
「昔語り」
講師　語り部 横山幸子さん
日時　八月一七日(日)午後一時半～三時

実技講座

※は要申込

※「草木染め1」
講師　染織工芸家 山根正平さん 山根好子さん
日時　九月一四日(日)午前一〇時～三時
※「草木染め2」
講師　染織工芸家 山根正平さん 山根好子さん
日時　九月一五日(月)午前一〇時～三時

はくぶつかんで遊ぼぉ！

場所　実習室

「七夕かざりをつくろう」
日時　七月六日(日)午前九時半～午後四時半
「和紙を染めよう」
日時　八月二四日(日)午前九時半～午後四時半
＊展示解説員がご案内いたします。
＊時間内随時受付　所要時間二〇分程度
＊昼の時間帯二時中断有り

やさしい展示解説

＊展示解説員による常設展の案内です。
＊毎週土曜日、日曜日の午前一一時と午後二時から三〇分ほど行います。
＊他の行事と重なる場合は開催いたしません。

＊その他、行事等の詳細に関しましては、月行事予定やホームページをご覧ください。

七月～九月の休館日

七月　七日(月)・一四日(月)・二二日(火)・二八日(月)
八月　四日(水)・一一日(月)・一八日(月)・二五日(月)
九月　一日(月)・八日(月)・一六日(火)・二四日(水)・二九日(月)

季刊博物館だより　第89号　2008年7月1日発行　編集・発行　福島県立博物館　〒965-0807 会津若松市城東町1-25　TEL 0242-28-6000　印刷　北日本印刷株式会社　会津若松市門田町中野字大道東8-3　TEL 0242-26-6222